

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者ケアセンター こぶし園	代表者	船越芳之	法人・ 事業所 の特徴	ご利用者の生活・介護（くらし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度の方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。ご利用者が今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。 また複合型施設の特徴を生かし、他事業所のご利用者とも交流し活動を行っています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	阿部恵理子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・改善計画の実現に向けた取り組みが行われているか事業所ミーティングで定期的に確認する。	改善計画の実現に向けた取り組みを行った。事業所ミーティングでの振り返りを定期的に行うことはできなかったが前年度に比べ課題に対する取り組み評価（自己評価）が全般的に高評価だった。 ご利用者の意向に添った活動ができるよう努めたが、意向確認が難しく対応に制限がでてしまった。	・外出したくない、家にいたいというのが本人の希望であれば、これからは家にいられるために生活の質を落とさない関わりをするとよい。 ・ご高齢の方はある程度したいことはしてきたのではないかな。何かをしたいというよりは、家にいたいというのが一番の希望になる方もいると思う。 ・本人の意向と家族の意向が違う場合もあると思う。介護保険では本人の意向が一番だが、家族の意向に寄り添うことは必要。介護負担の軽減につながり、結果本人の意向に添った生活を送れることになる。	・「暮らしの情報シート」（アセスメントシート）を活用し、情報を利用者、家族と共有する。
B. 事業所の しつらえ・環境	・事業所やセンター入口に季節感を感じられるしつらえを行う。 ・来訪者をお待たせすることなくすぐにセンター内職員に連絡がとれるよう、玄関チャイムや内線電話などの機器を調整する。 ・季節を感じられる創作活動を行う。	・サポートセンター千秋玄関に各事業所に繋がる内線電話を整備した。以前に比べスムーズな対応が可能になった。	・玄関ホールに飾ってある花は目を引くのでよい。花があることで会話になったり癒しになる。 ・施設内を見学した際居室前に植物などが書かれた小さな額縁が飾ってあった。和やかな雰囲気です。殺風景な感じがなかった。	・事業所入口の壁や靴箱の上に季節感を感じられるしつらえを行う。 ・額縁内の絵葉書を季節に合わせて入れ替える。

C. 事業所と地域のかかわり	・広報を継続して毎月発行する。 ・センター全体でも地域の方に来訪してもらう行事などを計画し交流できる場を設けていく。	・地域の方々が事業所に訪れる機会がない。文化祭や演奏会など外部の方々が参加できる行事を企画しても地域の方の来訪にはまだまだ難しいと感じた場面が多かった。 ・広報は今年度も毎月発行することができた。	・施設見学などを企画し回覧などで知らせてはどうか。皆さん関心があると思うので来訪するきっかけになると思う。 ・近隣住民から介護教室などの希望が聞かれている。地域に老人会はあっても参加者が固定されていたりイベントがあっても足（車）がなくて行けないと言われている。マンションは自治会もあるので問い合わせてみるというと思う。	・広報を継続して発行する。 ・センターを知ってもらうため施設見学を計画する。イベントに合わせた日程にしたり、対象者を絞って（老人会、マンション単位など）参加しやすくする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域の行事や活動に参加する。情報収集を行い早めに計画を立て実現する。	・近隣小学校の運動会やコミセンの秋祭りなど地域の行事に積極的に参加した。事前にイベントの日程を確認し車椅子でも入室できるかなどを先方と打ち合わせた。	・地域行事への参加はご利用者にとっても楽しみの一つになっていると思う。	・地域のイベント情報を年間で把握し希望される方が参加できるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・介護職員の運営推進会議参加を継続する。運営推進委員からの情報や意見を事業所で共有し運営に活かす。	・管理者以外の職員も運営推進会議に参加したことで貴重な機会を得ることができた。地域との繋がりを切らさないためにどうすればいいか考える機会にもなり、事業所全体の運営にも活かされている。 ・運営推進会議内での事例検討は行わなかったが会議の中で対応に苦慮しているご利用者について報告し助言をいただいた。	・事例検討を運営推進会議で行うのは現状困難ではないか。通常の運営推進会議を年6回以上、その他にサービス評価や避難訓練、食の会議などがあると事例検討会を行う余裕はないのではないかなと思う。	・管理者以外の職員の運営推進会議参加を継続する。運営推進会議で出た意見や情報を事業所ミーティング等で共有し運営に活かす。
F. 事業所の防災・災害対策	・防災訓練を定期的に行い運営推進委員の方々から見学してもらい評価を受ける。実際に災害が発生した際迅速に動けるよう避難経路を定期的に確認する。	・第3回の運営推進会議で避難訓練を見学していただいた。会議後に貴重なご意見や感想をいただき、今後活かせるよう周知した。	・避難訓練に参加した。 ・通常ご利用者の食事は翌日分までセンターに用意されている。避難備蓄は3日分用意してあるため、計4日分の食料は確保できている。	・引き続き実際に災害が発生した際迅速に動けるようどのような動きが必要になるか想定し訓練する。